

## 【水について考える】

沖縄県

南風原中学校

二年

甲斐

小日菜

私たちが住んでいるこの国、日本では、蛇口をひねればいつでもきれいでおいしい水が出てくるという状況が当たり前のようになっていますが、アフリカの国々などの多くの途上国では、深刻な水不足に陥っていて、安全な水を手に入れない人は、世界で6億6300万人にもなります。そして、その人たちが水を飲むためには、私たちと同じ子どもが毎日遠くはなれた池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいます。その水を汲みに行く時間に何時間もかかり、学校へ行く時間など、どこにもありません。そうして、時間も体力も使いやっとならなくなった水は、茶色く濁っていて菌などが繁殖している不衛生な水です。それでも、生きるためにはその水を飲まなければいけません。そうして、浄化されていない水を飲んで、命を落としてしまう乳幼児は、毎日800人以上にのぼっています。それらの水不足に陥る原因はさまざまですが、主に気候変動や水道管などのインフラ整備、人口の増加などがあります。

ここ最近、地球温暖化が進んでいます。それによって、現在の地球の気候が変化するといわれています。そして、人口が年々増加して行っているのに対して、水源が減っているため、ひとりあたりの使用可能な水の量が少なくなり、水不足になっています。これらの問題は、自然環境に関しての問題ですが、社会的な問題もあります。例えば、資金不足や水問題が政治的優先事項ではないことです。水を得るための最低限のサービスにあてる資金が不足していたりすべての人に安全な水を届けることを最優先課題としていないという原因も政府の意思があります。それから、政府が水を供給できていないという原因もありません。多くの途上国では、水インフラがあつたとしても、それを管理するシステムが不十分で、サービスの運用を続けていくために必要なエンジニアや管理者その他の技術者などの人材を確保するのが難しい場合があります。もっとも深刻な国もあり、水インフラやシステムが破壊されてしまっています。

さらに、遠く離れた農村地域に住む人々は、水関連のサービスについて要望を述べる機会を与えられなかったり、決断の場に参加したりすることはまずありません。また、障害や民族、差別などの理由で水の利用機会を得られない人もたくさんいます。

その一方、私たちの国、日本やアメリカ合衆国などの先進国では、毎日1人あたり約289ℓの水を使うことができます。

途上国に比べると、何十倍もの差があり、その水も安全できれいな水です。どうして先進国は、こんなにも水を使うことができるのでしょうか。その答えは、気候やインフラ整備が十分に整っているからです。日本はダムなどの貯水や水道管などのインフラ整備が充実しています。そして、台風などもよく通ります。台風と聞くと、デメリットが多いような気がしますが、実はダムの貯水量を一気に増やせるというメリットもあります。このように、日本は降水量、地形、インフラ技術のきれいな水を提供するために必要な条件が全て揃うとても良い国だと言えます。

その国に住んでいる私たちが、途上国の水不足で苦しんでいる人たちに、少しでも協力できることは、たくさんあります。

例えば、ユニセフなどの募金をすることで、途上国の人たちの誰かの命が救われるかもしれません。それから、私たちの日常生活の中でも、協力することができます。それは、出来る限り水を汚さないということです。台所・洗濯・お風呂などから排出される生活雑排水は、貴重な水資源を汚してしまい、使う水が減ってしまいます。その水資源を無駄にしないように日頃から協力を心がけていきたいです。